

# 木版画の神様 平塚運一展

会期 2018年7月14日(土)→9月9日(日)

開館時間 10:00-18:00(金・土曜日は20:00まで) ※ 入場受付は閉館の30分前まで

休館日 第1月曜日(8月6日、9月3日)

観覧料 一般 1200円(960円) 大学生 700円(560円) 小・中学生、高校生無料

※障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※( )内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(7月8日まで)、ローソンチケット(Lコード:33971)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて7月13日まで販売(7月14日以降は当日券販売)

主催 千葉市美術館



## 展覧会概要

平塚運一(明治28 - 平成9 / 1895-1997)は、島根県松江市の宮大工の家に生まれました。木材と彫刀に囲まれた環境で幼い頃から木版画に親しみ、大正2年(1913)の夏、松江で開催された洋画講習会で講師の石井柏亭と出会い、画家への憧れを募らせます。同4年に上京、柏亭から彫師伊上凡骨を紹介されて半年のあいだ内弟子となり、伝統的な彫版を身につけました。同じ頃に初期仏教版画を発見し、その素朴さや力強さに影響されながら自身のスタイルを築き、以後国画会と日本版画協会を主な舞台に活躍します。自画・自刻・自摺を旨とする創作版画家たちのなかでもひとときわ高く自在な技術から「木版画の神様」と称され、またよき指導者としても知られ、技法書や版画講習会を通じて彫り、摺ることの喜びを伝えて棟方志功ら多くの後進を育てたのです。

その造形は、初期の温雅な多色摺から、昭和初年に始まる豪快な黒白の構成へと展開しました。戦後の昭和37年(1962)には67歳にしてアメリカに渡り、同地の風物を題材に新たな作風を開拓、さらに1970年代には裸婦を主題にみずみずしい一群を残しています。102歳で稀有な版画人としての生涯を閉じるまで、版業は実に80年に及びました。

本展は、寄託品に所蔵品をあわせた木版画約300点から平塚運一の仕事を回顧します。古代と現代を、そして東洋と西洋を架橋したといわれる強靱かつ華麗な作品世界を、どうぞ心ゆくまで堪能ください。

## 生涯、版画三昧! 102歳まで生きた木版画のレジェンド待望の回顧展。

### みどころ

#### ☆ 首都圏では18年ぶりの回顧展

本展は、生きる版画史ともいえる木版画家・平塚運一の作品約300点を紹介する大規模な回顧展。これほどの規模の個展は、2000年に東京ステーションギャラリーで開催された「木版画に捧げた102歳の生涯 平塚運一展」以来、18年ぶりとなります。最初期の版画雑誌掲載作品から、100歳を超えて制作した最晩年の作品まで、80年におよぶ旺盛な版業をしっかりと時系列でお見せします。



#### ☆ 版画芸術の旅 多彩な画題を楽しむ

郷里である松江の穏やかな風景から、東京の新しい街並み、そして日本の名所や古寺をめぐり、仏教表現を追って朝鮮・中国へ、さらにはアメリカのクラシカルな街並み、人物表現…。平塚運一の版業を見渡すと、まるで旅をしているようです。温かな多色摺から力強い黒白版画といった確かな技術も見どころですが、多彩な画題も運一版画を楽しむポイントの一つです。

#### ☆ 運一からUn'ichiへ…洋の東西をむすぶ活動

1962年、67歳にして渡米。戦後の日本において熱心に愛好したコレクターには外国人も多く、アメリカでも大学や美術館・ギャラリーで次々と作品を発表し、講演会や摺りのデモンストレーションも行いました。運一の画業は日本の仏教版画から浮世絵、近代版画をむすぶとともに、洋の東西をもむすぶものだったのです。

#### ☆ 名だたる画家、文化人との交流

石井柏亭、竹久夢二、安井曾太郎、梅原龍三郎、棟方志功… 運一は生ける版画史ともいべきその長い生涯にわたり、多くの画家や文化人と交流をもちました。なかでも棟方志功は、はじめ川上澄生に感銘を受け版画家を目指しますが、その後のモノクロの力強い作風に転換したのは平塚運一が墨摺りの面白さ、美しさを熱心に伝えたためです。

## 記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーを行います。展示の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

7月17日(火)／15:00より(1時間程度)／10階会議室にて

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

## 展示会関連イベント

昨年人気の企画がふたたび！

### ■スペシャル講座

「小さな木版画－木口木版画の魅力」(事前申込制)

講師:長島充(画家・版画家／日本版画協会会員)

8月26日(日)14:00より2時間程度

11階講堂にて／参加無料／定員40名／対象:小学校高学年以上

【申込方法】往復はがきまたは当館ホームページからお申し込みください。

往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号(当日連絡可能なもの)・参加人数(2名まで)・氏名と年齢(参加者全員分)を明記の上、  
〒260-8733

千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係まで。

\*申込締切8月15日(水)必着 \*応募多数の場合は抽選

### ■美術館ボランティアによる立ち寄りワークショップ

7月28日(土)10:30-12:00・13:30-15:00

7階ロビーにて／参加無料／先着80名

### ■市民美術講座

「木版画の神様:平塚運一のひとと作品」

講師:西山純子(当館上席学芸員)

8月4日(土)14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名

「平塚先生こんにちは:平塚運一とその弟子たち」

講師:西山純子(当館上席学芸員)

9月8日(土)14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名

### ■ギャラリートーク

担当学芸員による:

7月18日(水)14:00より

ボランティアスタッフによる:

会期中の毎週水曜日(7月18日を除く)14:00より

※水曜日以外の平日の14:00などにも開催することがあります。

※混雑時には中止する場合があります。

### わくわく親子デー

7月30日(月)10:00-18:00

ベビーカー、小さなお子さま連れの観覧がもっと楽しくなるしかけをご用意してお待ちしています。

作品をめぐる楽しいおしゃべりも歓迎!親子に限らず、どなたでもご参加いただけます。

### 夏休みスペシャルプログラム

#### ■山の日ワークショップ

「行った山／行きたい山／空想の山」

講師:山下麻衣+小林直人(現代美術家)

8月11日(土)13:30より

9階講座室にて／定員:20名(要事前申込)／対象:小学生以上／要参加費

#### ■美術館で縁日気分!!

毎年恒例!!

8月19日(日)13:00～17:00

1階さや堂ホールにて

「千葉の親子三代夏祭り」にあわせた夏休みイベント!盛りだくさんのブースで大人も子どもも縁日気分をお楽しみください。

#### ■中学生のためのギャラリークルーズ'18

8月23日(木)、24日(金)10:00～15:00随時受付

所要時間30分程度／8階展示室にて

子どもだけの来館と鑑賞を美術館ボランティアスタッフがサポートします。1人でもグループでも参加OK。

夏休みの宿題(展示会鑑賞)にも対応できます。

◆イベントの申し込み方法、変更につきましてはホームページをご確認ください。

## 同時開催

所蔵作品展「旅ーちょっとそこまで、遠くまで」

「旅」をテーマに構成する所蔵作品展。子供も大人も、夏休みの小旅行は展示室でどうぞ。

※「木版画の神様 平塚運一展」をご観覧の方は無料



歌川国芳《東都名所 かすみが関》  
天保(1830-44)前期 千葉市美術館蔵

## 次回展予告

2018年9月19日(水)～11月11日(日)

企画展「1968年 激動の時代の芸術」



娑婆留圃社《獄送激画通信(三)》  
1970年 千葉市美術館蔵

# 「木版画の神様 平塚運一展」

## 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介くださいますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1. 平塚運一《ロスアンゼルスのはずれ》  
昭和37年(1962) 千葉市美術館寄託



2. 平塚運一《雲崗瑞雲、蒙疆》昭和32年(1957)  
千葉市美術館寄託



3. 平塚運一《鏡No. 1 波斯更紗》  
昭和45年(1970) 千葉市美術館寄託



4. 平塚運一《机上小禽》  
昭和3年(1928) 千葉市美術館寄託



5. 平塚運一《奈良十景 東大寺転害門》  
昭和35年(1960) 千葉市美術館寄託



6. 平塚運一《文楽人形八百屋お七》  
昭和27年(1952) 千葉市美術館寄託



7. 平塚運一《東京震災跡風景 浅草》  
大正12年(1923) 千葉市美術館蔵



8. 平塚運一《慶州瞻星臺》昭和15年(1940)  
千葉市美術館寄託



9. 平塚運一《奈良十景 依水園の庭》昭和35年(1960)  
千葉市美術館寄託

「木版画の神様 平塚運一展」  
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- \* 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- \* 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- \* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- \* 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- \* お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。  
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館  
広報担当行  
FAX：043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 平塚運一 《ロスアンゼルス町の町はずれ》昭和37年(1962) 千葉市美術館寄託
2. 平塚運一 《雲崗瑞雲、蒙疆》昭和32年(1957) 千葉市美術館寄託
3. 平塚運一 《鏡No. I 波斯更紗》昭和45年(1970) 千葉市美術館寄託
4. 平塚運一 《机上小禽》昭和3年(1928) 千葉市美術館寄託
5. 平塚運一 《奈良十景 東大寺転害門》昭和35年(1960) 千葉市美術館寄託
6. 平塚運一 《文楽人形八百屋お七》昭和27年(1952) 千葉市美術館寄託
7. 平塚運一 《東京震災跡風景 浅草》大正12年(1923) 千葉市美術館蔵
8. 平塚運一 《慶州瞻星臺》昭和15年(1940) 千葉市美術館寄託
9. 平塚運一 《奈良十景 依水園の庭》昭和35年(1960) 千葉市美術館寄託

■ プレゼント用招待券申込

(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先  
ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail. isono@ccma-net.jp

HP. <http://www.ccma-net.jp/>